

河川整備計画に寄せられたご意見

奈良県

大和川水系(生駒いかるが圏域)河川整備計画を策定するにあたり、学識経験者や住民の方々から寄せられたご意見を項目別に分類し、整理をおこないました。

〈学識経験者からの意見〉

学識経験者からの意見を聴くために、奈良県河川整備委員会を開きました。

- 第1回(H12.12.20)
- 第2回(H13. 3.29)
- 第3回(H13. 5.24)
- 第4回(H13. 7. 5)
- 第5回(H13. 9.10)
- 第6回(H13. 9月末)
- (他の圏域の現地視察につき除く)
- 第7回(H13.10.15)

〈住民からの意見〉

住民からの意見を聴くために、流域懇談会・説明会を開催し、新聞広告などで広報に努め、FAX・電子メール・郵便により意見を募集しました。

○流域懇談会の開催

(H12.12.13 いかるがホール 地域代表者、水利・漁業の代表者 17人)

○住民説明会の開催

第1回(H13.1.8 生駒市コミュニティーセンター 参加約20人)

第2回(H13.2.18 いかるがホール 参加約80人)

○文章により寄せられた意見

| 提出手段 | 提出数 |
|-------|------|
| FAX | 2 通 |
| 電子メール | 17 通 |
| 郵便 | 20 通 |
| 合計 | 39 通 |

目次

1.全体について

2.治水対策について

- (1)治水対策全般
- (2)河川計画(計画規模・手法等)について
- (3)流域での対策について
 - 〈森林緑地の保全〉
 - 〈流域の保水能力・遊水能力の向上〉
 - 〈河川管理者以外との連携した治水対策〉
- (4)内水対策について
- (5)改修の促進を望む
- (6)浸水区域の公表

3.水利用

- (1)水利用全般

4.河川環境

- (1)環境全般
- (2)水質・水量
- (3)生物
- (4)親水
- (5)まちづくり・景観
- (6)歴史

5.維持管理・その他

- (1)維持管理全般
- (2)堆積土砂取り
- (3)ゴミ
- (4)住民や自治体との連携・情報発信
- (5)教育との連携
- (6)その他

1.全体について

- 奈良県が抱える河川の歴史的問題、あるいは地勢の問題を踏まえた整備計画とする必要がある。
- 大和川流域の全体を整理しておく必要がある。
- 大和川水系(生駒いかるが圏域)河川整備計画であるので、直轄の本川とのかかわりを入れたらよいと思う。

- 河川のあるべき姿が最終的にどのようなものであり、その過程として概ね20年後にどのような姿にするのか示して欲しい。
- 奈良の川の特徴・課題を整理し、方針をきちんと打ち出すべきである。
- 奈良県全体の河川整備の具体的な目標を、まず簡単でよいからあげるべき。
- 川づくりの基本理念を一番前に持ってくることはできないか。
- いかに、計画に奈良県の個性を出すかを積極的に考えていただきたい。

- 参考資料の写真にイメージ図が入ればわかりやすいのではないか。
- 今回の整備計画の策定にあたっては様々な基礎データをそろえられていると思うが、実際どの程度資料があるのか示して欲しい。
- 治水対策について説明する際、資料等を使用してわかりやすいプレゼンテーションに努めるべきである。
- 一般に公表するのであればできるだけ凡例を正確につけた方が理解されやすい。

- 現状に対する課題は記述されているが圏域の将来についてどのように考えているかを整理すべき。

- 第2章でいきなり河川工事がでてくるが、計画そのものの話がなく、いきなり手段である工事の話が出てきており、計画の話が見えてこない。
- 先に、河川整備の理念や方針があって具体的な各河川の整備目標があるという形にできないものか。
- 河川工事が出てくる前に、各河川ごとのあるべき姿を示して欲しい。

2.治水対策について

(1)治水対策全般

- 総合治水対策と整合を図れた計画である必要がある。
- 氾濫を許容する河川整備の考えかたも活かしていくべきである。
- 年間降水量が少ないのに、なぜ洪水被害が多いのかわからない。

(2)河川計画(計画規模・手法等)について

- 県の管理区間を先に改修し、国の管理河川を後回しにするのは逆である。
- 周辺の状況の変化を考慮して計画を立てて欲しい。
- 今進めている計画の安全度では低すぎるのではないか。
- 河川整備の区間の抽出方法について説明がなくわかりづらい。
- 現在進んでいる工事とこの整備計画がどのように整合性があるのか説明が必要。
- 整備計画に記載されている事業についての事業費が示されてもよいのではないか。
- 1/10の規模について、わかりやすい説明が必要。
- 他の県の河川と比べて安全度がこんな程度がいいのかどうかというのが本音で思った。
- 整備区間の抽出、その後の施工まで慎重に配慮する必要がある。
- 掘削土の排出先の検討も必要では。他事業との連携は図れないか。
- 大和盆地は日本有数のため池の国であったのにため池を潰しダムを作るといのはずいぶん矛盾している。
- 近年ダムの建設が盛んであるが無意味に自然をこわすダムは反対である。
- 無意味なダムの計画は反対である。
- 情報公開に対応できるよう説明資料についても整理しておく必要がある。

- 時間雨量の採用について1時間雨量がいいのか3時間雨量がいいのかといったところは三代川と竜田川、富雄川で異なると思う。
- 土地の利用形態が変わっているということも考慮した計画が必要ではないか。
- 治水対策を何年確率といった表現でするためには、何年かに1回は洪水になるといっているようなものである。その表現を住民に納得してもらう必要があると思う。
- 三代川だけなぜ3年確率なのかについて3年確率の場合と10年確率の場合とどちらがどうか整理しておく必要がある。
- 費用対効果の仕組みと確率年の整備水準を3つの川できちんと説明するように整理した方がよい。
- 三代川の代替案としては富雄川への放水路も検討すべきではないか。
- 三代川が3年確率でなぜ大門川が50年確率なのか。非常に不公平感があるという感じがする。
- 生駒いかるが圏域の治水対策について安全度の違いを納得できる形で説明できるように資料を整理するべきである。
- 降雨データの根拠について説明してほしい。
- 1/10 暫定計画は、将来の計画に対する手戻りはないのか、確認しておく必要がある。
- 用地が買えるところは、河道内貯留しておくなど段階的施工はできないか。
- 亀の瀬の流下能力はどのくらいか示して欲しい。
- 支川改修が大和川の負担にならないか配慮が必要である。
- 計画の実現のために、事業費の積み上げが必要である。
- 局地豪雨に対する浸水対策を進めてほしい。
- 現在の雨量で改修しなければ最近起こっている集中豪雨に耐えられないと思う。
- 最近起こっている集中豪雨に対してどのように考えているのか。
- 平成12年の7月4日の豪雨が100年に1回の豪雨で現に起こっている。
こういったことも考慮して欲しい。
- 竜田川を見て平成11年8月、平成12年7月の出水を見ると
10年に1回の計算の仕方でよいのか疑問に思う。
- 目標とする降雨が1時間50mmで良いのかどうか。
最近起こっている記録的短期の大雨を考えたとき見直しても良いのではないか。

(3) 流域での対策について

〈森林緑地の保全〉

- 水源涵養林の確保が重要ではないか。
- 林野関係と協力し、上流部の保水力を高める取り組みを望む。
- 森が無くなり、田が無くなり保水力が無くなっていると思う。木を増やすことや、米の自給率を高めることを考えて欲しい。オランダでは牧場が緊急時には農地(田)になると聞いている。
- 生駒市では宅地開発が進み、森林緑地が減少した。そういったことを認識せずに治水対策を検討することはできない。
- 宅地の開発、森林の伐採についても重ねて考えて欲しい。
- 洪水が起こるのは山などに保水力がなくなり森が無くなったということが基本的に有るのではないか。
- 単に洪水を流すだけでなく、どこかで水をためておく保水力を持った森があったらいいのと思う。
- 保水力があると川に水が流れ景観に良く、川遊びができると考えられる。

〈流域の保水能力・遊水能力の向上〉

- 総合治水対策の効果は期待できないが、家庭内の雨水貯留槽の設置は効果が期待できるように思う。
- 集中豪雨を一時的に貯留する施設を設置して欲しい。
- 大和川合流点付近の水田の土手を嵩上げすることにより遊水機能を確保することがよいと思う。
- 林野関係など他の部署とも連携し上流部に保水力を高める取り組みが必要である。
- 透水性舗装は現在どの程度実施しているのか示して欲しい。
- 開発の調整池を適切に管理してほしい。
- 公園やグラウンドに遊水池を作るという方向もあってもよいのでは。
- 洪水を流すばかりでなく、貯め込むことを考えるべき。それを徐々に出すことが河川環境の維持にも効果がある。
- 流域対策で舗装面積が現在どれくらいの割合で透水性を使用しているであるとか、防災調整池がどこにあるとかといったデータの整理が必要ではないか。
- 用地買収せずに、農地を遊水池に利用する方法も検討すべき。
- ため池を活用した保水施設など総合的に考えていくべき。

〈河川管理者以外との連携した治水対策〉

- 土地行政との連携を含めた治水対策が今後は必要である。
- 治水対策を検討する際、土地利用との調整は重要であり、河川管理者だけでなく他の関係機関との調整も重要である。
- 透水性舗装との連携ということが、まちづくりとの連携のひとつである。
- 今後20年間の暫定的な治水対策として総合治水対策に取り組むなかで、各部局での取り組み等をもう少し資料として整理すべきである。

(4)内水対策について

- 川幅を広げて洪水を流すことは、下流の浸水をまねく。
- 安堵町の浸水対策は、大和川を下げないとどうにもならない。
- 岡崎川の浄化施設の近くで川幅を広げてあるように他でもしてもらえたら、水がたまり水害が減少するのではないか。
- 安堵の近辺において3年、10年というのは遠い話で来年の浸水をどうするか心配である。
- 安堵では農作物は毎年冠水するか途中まで浸水するかの状態である。
- 安堵町の浸水状況を見てよく考えて治水対策を進めて欲しい。
- 自衛策として岡崎川の樋門を現在より100mほど上流に持ってきて欲しい。
- 内水被害に対して何か手を打って欲しい。
- 内水被害が生じても仕方がないが、農作物の湛水期間が1週間と3日とでは育成状況や肥料代、薬剤代が違ってくる。
- 今ある樋門を増やせば湛水期間が短くなるのではないか。
- 他府県で行っているように地下にトンネルをつくり一時貯留を検討して欲しい。
- 大和川に合流するところの樋門では、ポンプによる排水が必要と思われる。
- 亀の瀬が下がればどの程度今浸水しているところが低減するのか教えて欲しい。
- 亀の瀬の地滑り地帯で、左岸側にトンネルをつかって洪水を流せばいい。
- 三代川の下流は樋門が閉まるとそのまま田へ水があふれつかることになっているが、その対応を考えて欲しい。

(5) 改修の促進を望む

- 亀の瀬の開削が治水上非常に大きな効果が期待できると思う。
- 竜田川の改修を促進して欲しい。
- 杣川の改修計画を示して欲しい。
- 水害が多いことに驚き、早急な治水対策をお願いする。
- 竜田川の改修は遅れているように思う。
- 浸水被害の解消を望む。
- 平成12年7月に発生した富雄北の浸水被害の解消を求める。
- 3年、5年、10年後どのようになっているか示してほしい。
- 亀の瀬の改修促進を国に積極的に働きかけてほしい。
- 三代川のJR橋の改修を促進して上流浸水の解消をしてほしい。
- 亀の瀬の工事はずいぶん長くしておられるのでテーマを持って実施されていると思うが、大和川の改修との関係を示して欲しい。
- 大門ダムを作ってもらおうと大門池の崩壊の危険がなくなるので、できるだけ早く着手して欲しい。
- 大阪のように、地下トンネルに洪水を一時貯留させるぐらいの積極的な治水対策をとるべき。
- 大和川が改修されないと富雄川の水位が上がり芦川の水位も上がるのではないか。
- 整備計画で示されていることはいつ頃どの辺りまで進んでいるのか。
- 平群町では川のすぐ横に住宅を建てており、浸水する家の人は自主的に避難している。

(6) 浸水区域の公表

- 「ここは水つく地帯ですよ」といったものを出していけばよいと思われる。
- 浸水する地域を公表すればよい。

3.水利用

(1)水利用全般

- 治水についてはわかるが、利水や環境については具体的にどのように考えているのか示して欲しい。
- 洪水による井堰の被災復旧を見て欲しい。
- 利水はこの地域は問題がないのか示して欲しい。
- 将来田を作ることを考えて水利についても考えて欲しい。
- 今回の整備計画の中で、
 - ①慣行水利権への配慮はどのように考えているのか。
 - ②改修の実施に伴う井堰の取り扱い及び維持管理費はどのようになるのか。
 - ③井堰の改築に伴う耐用年数については河川の状況により変わると思うがどのように考えているのか。
 - ④洪水時の井堰の管理について一元的に取り扱ってもらえないか。
- ため池の底は川底よりも下げて欲しい。
- ため池の底が河床より高いので止水のための矢板を入れて欲しい。
- 水収支の概念図には定量性を記述しないと低水について把握ができないのではないか。
- 水害対策だけでなく、農村では常に水があるので、渇水期における対策も考えて欲しい。
- 親水や利水の面については具体的なものが見えてこない。

4.河川環境

(1)環境全般

- 四季楽しめる川が重要である。
- 水は自然に流れるものであり、自然に形成される状態を大事にすることが重要である。
- 水質の浄化についてもっと啓発活動を進めるべきである。
- 古都奈良は歴史を重視するあまり放置する癖があるように思う。
放置すると自然は死ぬので現状の良いところを維持するための手入れが必要である。
- 治水についてはわかるが、利水や環境については具体的にどのように考えているのか示して欲しい。
- 自然に親しめる空間を作るため県だけではなく市町村も協力して欲しい。
- 多自然型川づくりは、その場所に適した工法を選択して欲しい。
- 環境については、河川課だけでなく、環境部局、農林部局、都市計画とともに総合的プロジェクトを検討して欲しい。
- これまでの河川改修は治水対策重視のため環境が悪化したと思う。
- 原案にある富雄川の奈良工区の横断図は完全に理想であり、そんなことはできない。
- 計画案の全体的なトーンが治水が重視になっており、環境分野の分量が少ないという感じがする。
- 地域住民との意見交換の場では川の多面性についても説明する必要があると思う。
- 治水関連の数値や整備目標は非常にはっきりとわかるが、生態系保全、汚濁対策及び景観対策ということが分量的に少ないと思う。
- 整備計画の具体的工事についてはどのように施工を進めるかということも大事である。
- 河川環境の基本理念・基本方針は、まず水量・水質があり、次に生態系の保全、そして景観であったり利用といった面があるといった分け方がすっきりするのではないか。
- 環境保全に対する川の役割について、議論の俎上に上ったのは良いこと。
- 河川環境整備の考え方を整理すべきであり、その際は、水質・水量が最も重要である。

(2)水質・水量

- 水質浄化のために廃油吸着材を住民に無料支給して欲しい。
- 水質の浄化についてもっと啓発活動を進めるべきである。
- 見た感じだけのきれいさではなく、真に川の水からきれいな、魚や虫が喜ぶ川づくりをしなければならない。
- 基準を満たす水質を取り戻すために具体的な施策を示して欲しい。
- 竜田川の浄化を考えてほしい。子供たちが水浴びできるようにしてほしい。
- 水質の浄化が必要。竜田川を紅葉の名所にしてほしい。
- 下水道の整備を進め、きれいな水の流れる川にしてほしい。
- 生ゴミを処理する機械を補助金で購入できないものか。
- 通勤電車から川を見ていると、川の水量の変化や水質の汚れがよく見える。水質については、自治会における洗剤の使用についての啓発活動等が必要と思われる。
- 竜田川は壱分橋までがきたなくその下流は少しましである。
どの地点でどのような水が入ってきているのかつかんでおくことが重要と思われる。
- これまでの河川改修は治水対策重視のため環境が悪化したと思う。
竜田川が排水溝に変わったという声も聴く。河川へ遊びに行くという気持ちを大事にしてもらいたい。
また、ルネッサンスという言葉は復興を意味しきれいな言葉であると思うが、浄化施設は一度整備された河川にもう一度工事をするといった感がある。施設を設けるのではなく護岸に工夫し、自然の浄化力を高めるといった視点で検討もして欲しい。
- 河川の環境への影響を考慮し水を蓄えるということも検討していくべきである。
- 大和川が汚れている理由には雨が少ないということがある。そのため、ダムなどにより、水を貯めるということは非常にいいと思う。
- 住民への説明のためには、親水性について「裸足で入れる」であったり、「魚釣りができる」といった説明がよいのではないか。
- 水質浄化について活発な啓蒙活動が必要と思う。
- 洪水を流すばかりでなく、貯め込むことを考えるべき。それを徐々に出すことが河川環境の維持にも効果がある。
- 渇水期の対策も忘れずに考えてほしい。
- 大和川ワースト1は暗いイメージ。水質改善に取り組んでいることをもっと発信することが必要。
- 環境の理念の考え方は、「水のきれいな川づくり」が一番最初にした方がよい。
- ダムの建設にあたっては、ダム下流の川の流量を確保することが必要。

- 浄化施設は維持管理のコストがかかるものの、水をきれいにするためには必要である。
- 岡崎川以外にも浄化施設が必要なのではないか。
- 大和川の水質改善のために、下水道を整備すれば良いというものでなく、大和川は水が無いということも配慮しながら川づくりをしていくことが大事である。
- 農業用水が水質改善に及ぼす効果を評価しておく必要がある。
- 大門ダム下流で正常流量を確保する必要がある。
- 実盛川はため池により下流に水を流していない現状に対して、ダムにより水を流すといった表現にした方が、ダムの設置理由として、わかりやすいのではないか。

(3)生物

- 低水路をつくることで水の流れをつくってほしい。
- 小動物の楽園を富雄川につくってほしい。
- 生物学、生態学の専門家と話し、整備を進めてほしい。土砂取りの際も生物に配慮してほしい。
- 自然を大切にし緑を増やすためにもコンクリートの河川づくりは絶対にやめるべきである。
- コンクリートの護岸でなくても洪水は防げるはずである。
浄化作用も手伝う生物との共生をぜひ取り入れて欲しい。
- 今後やっていく箇所については自然に配慮するのはわかったが、
現在富雄駅付近で進めている河川工事はコンクリートの護岸であり急勾配である。
工事がしにくいというのはわかるがもう少し工夫をして欲しい。
20年前は桜の木や土堤があったのでそういったことも考慮して欲しい。
- 竜田川の支川大谷川はかつてはホタルが多くいた。しかし20年ほど前に河川が三面張りになり
全くいなくなった。現状は川に土がたまり水も流れていない。
ホタルができる環境はできないものか。
- 個別の河川工事の方法は決まっていないようであるが、多自然の短所はあると思うが
長所及び短所を並べると選択しやすいと思う。
- 竜田川を自然に親しめる川にして欲しい。
- 富雄駅付近の工事で、もう少し工夫してほしい。
- 富雄川をメダカが棲めるような川にしてほしい。
- 魚が棲むようにするために、魚が泳ぐところだけでなく、休むところをつくるべき。

- 魚が子供を産み繁殖していくていく場所づくりをどこかですればいいと思う
- 瀬と淵があり、魚が安全に繁殖する場所づくりが必要。
- 整備計画を実際の工事に十分反映させてほしい。
- 生き物の立場から見ても「うまく川づくりをした」と納得できるような川づくりが必要である。
- 基本理念・方針:「自然と共生した快適な水辺空間をめざして」とは具体的にどのように共生するのか。
- 「生き物にやさしい」という言葉は曖昧であり使うべきでない。
- 人間以外から見た河川環境について検討すべきである。出水時に魚が逃げられるような場所づくりが必要である。魚が棲めるような川づくりを考えていく必要がある。
- 多自然型川づくりの効果を知りたい。

(4) 親水

- 富雄川の堤防に樹木を植え憩いの遊歩道を設置して欲しい。
- 富雄川に桜を植え、親水公園、釣り場、遊泳場等の設置を検討して欲しい。
- 富雄川にジョギングコースを設置して欲しい。
- 堤防をもっと人が川に親しみやすくし、水質は川で泳げるようにし、
岸辺は魚などの生物が住める環境にすべきである。
- 掘込部分においてもっと植樹し散歩に利用できるように考えて欲しい。
- 富雄川で散歩やジョギングのできる潤いを与えてくれる空間が欲しい。
- 道の駅に負けず、植樹や散策道を設置してほしい。
- 富雄川が古道であったことから、堤防に遊歩道をつくってほしい。
- 子供たちがのびのび遊べる川原を整備して欲しい。
- 富雄川を見て思うのであるが、神戸の住吉川のようになればと思う。
もう少し住民が近づける川にして欲しい。現状は川が深く入れるところがない。
川にメダカが住むようになり住民が近づけて川が身近に感じればと思う。
- 管理用通路を利用した自転車道は考えられないものか。竜田川なら考えられるのではないか。
生駒を自転車で横断することにより、交通車両が少しでも軽減でき環境にもよいのではないか。
- 子供は富雄川を見て怖いという。
- 富雄川に入ったら脱出が不可能であり、何らかの手だてが欲しい。
- 県立竜田公園の辺りでは水辺に近づけたが今は無理である。
- 近づきやすい川づくりをもう少し検討すべき。

- 水辺にアクセスできる難易度の資料がほしい。
- 川に親しむということから、堤防は高くしない方がよい。
- 水辺、水際へのアクセスの検討が必要である。
- 河川環境について考えるとき、人間が見た河川環境としては、住民の方々からでている「川で泳げるように」であったり、「桜を植えて欲しい」「竜田川に紅葉を植えて欲しい」といった要望がでる。そういった意見も考慮してもらったらと思う。
- 子供が川底に近づける階段などの施設を計画的な距離間隔で設置する必要があるのではないか。
- 2割勾配イコール親水性が高いとは言えない。急勾配でもオープンスペースがとれば親水性が確保される。
- 親水性を高めるうえで、200mに1カ所程度は川に降りられる場所がほしい。

(5)まちづくり・景観

- 河川の整備は災害防止の意味から必要なことだが、河川流域の景観についても同時に規制する必要があるのではないか。
- 竜田川に万葉の景観を取り戻して欲しい。
- 竜田川の歴史的景観をもっと考慮して欲しい。
- 富雄川の土手に桜並木を作って欲しい。
- 生駒市内の竜田川は景観面を重要視した改修にしてほしい。
- 河川区域の景観を保全してほしい。
- 以前は木が多くあり、これが河川の景観上必要であると思う。
- もう少し広い目で川沿いを見て計画して欲しい。
- 以前は木が多くあり、これが河川の景観上必要であると思う。
- 竜田川は小学校のころ紅葉を写生しに行った。今はそんなところがない。
- 竜田川の紅葉という観光資源がなくなった。
- 大門ダムは今の水位と比べてどの程度下がるのか教えて欲しい。
- 河川環境について考えるとき、景観についても計画に記述が必要と思われる。
- 地域との関わりのなかで都市計画や街づくりとどう連携するかが大きく影響すると考えられる。

- 基本理念・方針の「地域で愛される川をめざして」のところで
 - ①生駒いかるが圏域の特徴が見えない。
 - ②まちづくりとの連携が感じられない。
 - ③河川を都市景観として見ればどうなのか留意してほしい。
 - ④河川から、流域へ発信するスタンスがほしい。
- 川を地域の中心に据えた「地域の個性を活かす川」というスタンスがよい。
- 高い堤防ではなく川が見える改修をすることが、親水性を高める。
- 河川がどう都市と関わるかが重要である。整備手法は様々有るが、それぞれその場に合わせたデザインを考えること、また、範囲が河川に限られていないデザインを考えることが非常に重要である。護岸を緩勾配にするよりも急な護岸と平らな部分を組み合わせた方がオープンスペースを作る点から意味がある場合もある。
- 多自然型でも、草ぼうぼうでは見苦しい。
- 葛城川など、河川区域内にとどまらず、周辺の場合にあわせたデザインが評価できる。
- メンタルなことも含めて、オープンスペースとしての視点は重要。
- 大きく、周辺をにらんだ川づくりの視点が重要

(6)歴史

- 竜田川の歴史をふまえた整備をしてほしい。
- 竜田川を実際見た時がっかりした。平安時代を偲ばせる自然と親しめる川にしてほしい。
- 生駒にきてこの川が竜田川かと思った。万葉集の頃のことは生駒ではなく斑鳩のことかもしれないが、少しでも平安時代のことを考慮して欲しい。
- 竜田川に昔あった紅葉を復活させ、ふたたび川の中に入れるよう考えてほしい。
- 竜田は「竜田の川の錦なりけり」といわれるほど紅葉の名所である。
- 竜田・斑鳩地域は歴史的な地域であり、ぜひ歴史的な環境、歴史的な景観ということを検討してもらいたい。
- 実盛川には虫送りという神事がある。この行事を維持するための整備も必要と思われる。
- 奈良県の河川の特徴に直角に川と川が交わることがある。これは昔の条里制によるものと思われるが、河川工事の際、川筋を変える場合は関係部局とよく協議したほうがいい。
- 歴史的環境の保全、復元についても十分検討する必要がある。

○生駒いかるが圏域では竜田川が歴史的環境も一番よく保全すべき川である。

竜田川といえば紅葉なので、紅葉を増やすべきであり、観光政策とタイアップして進めていくことも必要である。

○大門池は信貴山の正門であり、参詣道であるというところに気をつけておくべき。

○三代川は法隆寺の創立と絡む条理があるところであり、河川計画において気をつけておくべき。

○歴史の保全と治水工事は、両者の歩み寄りとバランスが重要である。

○大和川の歴史は、長い間政治権力の中心であった場所であり、川自体が全国的な存在である。

また、川には信仰的な畏怖の対象としての存在がある。

5.維持管理・その他

(1)維持管理全般

- 改修後の維持管理を考えた施工をすることが必要である。
- 今後人口増加は見込めないので税収も少なくなる。そのため維持管理費がかからないように検討すべきである。
- 放置するという消極ではなく、維持するという積極的な取り組みを行わなければならない。
- 河川やダムの維持管理のことも計画に反映させてほしい。
- 今後の維持管理のあり方についても触れておいてほしい。

(2)堆積土砂取り

- 芦川や沖台川では堆積土砂が多いが整備してもらえないか。
- 富雄川が郡山市内で溢水したのは堆積土砂を取らなかったことによる人災ではないか。

(3)ゴミ

- 河川美化を啓発する看板が倒れ河川美化を阻害している。整備を急ぐのではなく管理についても検討すべきである。
- 住民を巻き込んでゴミを減らすことを検討しないといけない。
その後、河川敷の平地の整備を進め子供たちがのびのび遊べる川原にして欲しい。
- ゴミを捨てない、捨てさせない環境と教育・指導の徹底が重要であると思う。
- ゴミ問題は市町村と連携しマナーの問題も含めて改善に努めて欲しい。
- 人が河川を利用するとゴミが捨てられなくなると思う。
- 河川改修も重要だが、河床にあるゴミの清掃も必要だ。
- 大和川には、プラスチック製のゴミが多い。

(4)住民や自治体との連携・情報発信

- 富雄川に地元の協力を得た桜の植樹を進めて欲しい。
- 竜田川は自然に親しめる川にして欲しい。自然に親しめる空間を作るためには川幅を広げる必要があり、県だけではできないと思うので市町村も協力して進めて欲しい。
ビオトープ的なものを考えて部分的でよいので市町村にも働きかけて考えて欲しい。
- 住民への周知の方法を工夫してほしい。
- こういった情報の公開についてですが、原案を見たり、意見を提出する際にホームページやインターネットを利用されているが、実際にこのようなものは普及されていないのが現状と思われる。もう少し情報公開の方法について検討して欲しいと思う。また、住民と対話した河川整備を進めると有るが、実際にされているところはあるのか。熱意が高いとはどのような基準で検討されているのか。実際の整備について意見を聴くためには各河川での流域レベルでの懇談会が必要と思われる。
- 住民が管理をするために、前提条件として河川の利用をもう少し検討するべきである。
- 河川管理者の努力をもっと県民に情報発信するべき。
- 「地域に愛される川をめざして」とすれば、川中心で地域が出てこない。
- 積極的に情報発信を行い、地域住民の方々に多くの情報を提供する。
- 河川管理の全てを行政が負うことは税金の面でも非常に負担となる。
このため、みんなでゴミを拾いにいくといった発想が大事であり、市民と河川管理者、行政との間を接着する仕組みが大事である。
- もっと、行政が川の情報を発信すべき。
- 人間から見た川の環境をつくるため、この委員会以外の地元の声も拾い上げてほしい。
また、生き物から見た川の環境をつくるため、魚の待避場所を確保してほしい。
- 行政と市民の間で、両者をコーディネートするNPO組織ができないか。
- 行政サイドからNPOとの連携につとめる必要がある。
- 住民が川に向いてきているチャンスをとらえて、どういう運動体を構成して進めていくか、整備計画で提言として出すべきである。
- 河川課が責任を持ってすべて行うという書き方ではなく、住民も参加してどうするかというようなことを書ければ、良い計画になってくるのではないか。

(5) 教育との連携

- 美しい川により道徳心を養ってほしい。
- 子供が川で遊ぶために必要なことは
 - ①川で調べる時間を与えること、
 - ②友達がいること、
 - ③どんな場所がいいかといったアドバイスが必要である。
- 地域の方々や、学校教育の現場にもいろいろ情報発信すればよい。
- 本当の大自然と離れている子供たちに、いかに川を大事にしないといけないかということを考えさせるために、学校だけでなく、地域の方たち、行政の方たちから、ゲストティーチャーとしてでもいいからでてきていただきたい。

(6) その他

- 夜間の洪水対策のため、投光機を設置するなどが必要である。
- 現況の写真の中に完成後のイメージを入れるとわかりやすい。
- 工事の際に我々の要望は事項は聴いてもらえず、一方的に協力するように言われる。
- 横断図で、現状と計画の線が区別しにくい。
- 市民感覚、県民感覚では河川や水路の法律上の区分は関係なく、身近な川というのは非常に大きな関心事である。そういう意味で縦割り行政を連携させるという方向性を示すべきである。
- 川は一体のものであり、連続しているという意味合いで、川づくりそのものについては国と県が一体というスタイルの方がよいのではないか。